

令和4年度 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業（実施地域：山口県 周防大島町） 採択団体：(株)YMFG ZONEプランニング

■ 事業実施地域（山口県 周防大島町）の現状

【基本情報】

- 山口県南東部の瀬戸内海に位置し、全域が瀬戸内海国立公園指定される等、美しい景色や自然に恵まれている。
- 人口は15,539人、高齢化率は54.1%となり、人口減少・少子高齢化が顕著に進む地域である。産業は農業及び水産業が主要な産業となっている地域である。（※数値はいずれも令和2年9月時点）



【地域資源】

- 瀬戸内海国立公園では初となる「海域公園地区（町南東沖の海域）」に指定されている国内最大規模のニホンアワサングの群生地（約3,000㎡）
- 地域の自然保全に向けたエコツーリズム等に取り組む多様な団体
- 地域創生を学ぶ学科を有する地元県立高校



（出所：町提供資料より）

■ 取組を通じて目指すありたい姿

- 当海域に群生するニホンアワサングをはじめとする豊かな自然の活用を通じた保全を進めると共に、地域の子供たちをこの取り組みに参画させ、**町をフィールドとした地域課題解決における次世代の担い手としての育成を地元と連携し進めていく。**

- これらの自然環境の保全、**新たな地域課題解決の事業創出と連動しながら地域の担い手が育ち、地域の資源が循環していく地域作り**を目指すと共に、**地域創生教育モデル**としての構築を進めていく。

ありたい地域の姿

◎3側面が上手く連動・循環する地域づくりを目指す

環境

- ニホンアワサングを始めとする自然景観の保全
- 担い手育成フィールドとしての活用を通じた保全の促進

経済

- 次世代の担い手による地域課題解決産業の創出（起業等）
- エコツーリズムプログラムの活性化による消費拡大

社会

- 次世代の担い手の育成
- 地域創生教育のモデル地域化
- 新たな人（子供）の流入拡大

■ 実施内容の想定

◎ ESDモデルの構築

- OECD（経済協力開発機構）がまとめた「Education2030プロジェクト」における中間報告では、多くの不確実性（VUCA）が伴う社会において、より自然界との共存が求められるとしており、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」を重要な行動特性としている。
- 町には地域創生を学ぶ科を有する高校が立地しており、同校と連携し当社の作成した地域循環共生圏の形成に係る学習ツールを活用し、島を実証のフィールドとして生徒自身が地域課題の探索から検討し、地域課題解決のアプローチ手法を学ぶことを通じたESDモデルの構築及び金融教育の推進を目指す。



（動画コンテンツの1コマ（当社作成））



（経済産業省未来の教室事業における課題探求・解決学習の指導風景）

◎ エコツーリズムの推進

- 地元でニホンアワサングや自然景観の保全に取り組む団体と連携し、これらの資源を活用したエコツーリズムの推進について、令和5年に供用開始となるエコツーリズム拠点施設を核として取組について検討を進めていく。
- 具体的には、現在実施しているトレッキングツアーに加え、ニホンアワサングを観察できる仕組みの検討なども進め、資源を活用した町内・町外からの新たな人の流れをつくり地域の活性化を進めていく。
- これらのエコツーリズム推進を行うと共に、次世代の担い手育成、町外企業との連携等、様々な取組が連鎖的に生まれ、地域の自然の保全と共に資源の有効活用、活動を通じた担い手育成が循環する仕組みの構築を進めていく。



（出所：山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会HP <http://tobu-ecotour.com/>）